

2 戦略を描く

では、実際に豊岡の生物多様性を豊かにしていくためには、
どのような考え方で現状をとらえ、どのような将来のイメージを描き、
具体的に何をやっていけばいいのでしょうか。

目標を掲げ、それを実現するための作戦を練る――。

この章では、第1章「豊岡を見つめる」をもとに、
豊岡の生物多様性保全に向けた「戦略」を形にしていきます。



1 位置づけと方向性

①位置づけ

生物多様性を通じて 豊岡を一層輝かせる

この戦略は、豊岡市総合計画（後期：平成24～28年）に掲げるまちの将来像、『コウノトリ悠然と舞うふるさと』を、生物多様性への確かなまなざしに基づいて実現しようとするものです。

なお、豊岡では、「いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」（平成24年6月）において、かけがえのないいのち、限りあるいのち、つながっているいのちへの意識を市政の根底に置くことを、また、「コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」（平成18年12月）において、すべての施策における環境への配慮を謳っています。この戦略では、その基本的な考え方に基づいて、市の施策全般における生物多様性保全の道筋と方法を示します。

まちづくりの流れ

年度	計画・条例	キーワード
H18	コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例	「自然と折り合いをつけながら生きる」
H18	豊岡市環境経済戦略	「環境行動を持続可能にするための環境と経済の共鳴」
H18	豊岡市総合計画	「コウノトリ悠然と舞うふるさと」 ・安全に安心して暮らせるまち ・人と自然が共生するまち ・持続可能な「力」を高めるまち ・未来を拓く人を育むまち ・人生を楽しみお互いを支え合うまち
H19	豊岡市環境基本計画	「豊かな自然とおおらかな文化」
H24	いのちへの共感に満ちたまちづくり条例 豊岡市景観計画	「いのちへの共感」 「豊岡らしい風景づくり」
H25	生物多様性地域戦略	「生きもの・いのちへのまなざし」

この戦略は同時に、生物多様性基本法（平成20年6月）及び生物多様性国家戦略（平成24年9月改訂）に基づく、市町村が定める「生物多様性地域戦略」にあたるものです。その県版にあたる生物多様性ひょうご戦略（平成21年10月）においても、市町を含む様々な主体と情報を共有し、参画と協働により連携して取り組むことが明示されています。

この戦略においても、具体的な実践は市の施策だけで完結するものではなく、関係する行政、事業者、民間団体や住民などにも理解を求めながら協働で推進するものと考えています。

もちろん、生きものの暮らしや地域社会のつながり自体が、一つの市だけで完結するものではありません。市域を越えて暮らす野生動物がいますし、私たちは近隣の地域社会ともゆるやかに交流しています。

この戦略の実現には、広域的・横断的な視点を持った取り組みも必要です。

②方向性

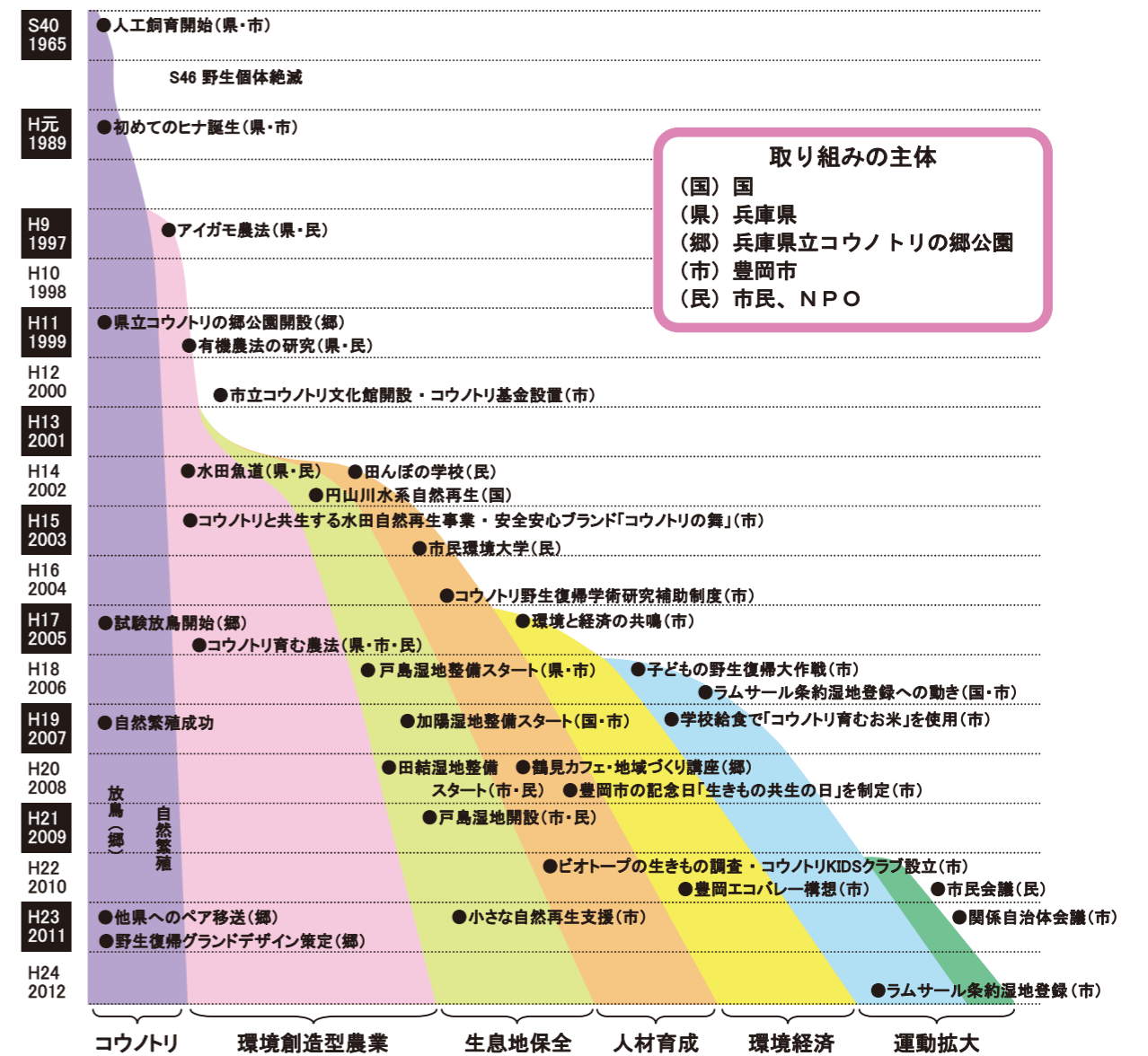
コウノトリが拓く 生物多様性の世界

私たちに、日本で一度は絶滅したコウノトリの野生復帰を通じて、長年にわたって自然再生を進めてきた経験があります。今では、数十羽のコウノトリが自然界に戻り、その生息を支える環境や生きものの裾野も大きく広がっています。「コウノトリを守ることで、健全な生態系を復活させる」という当初の目標が少しずつ実現しつつあります。

また、この野生復帰の取組みは地域づくりと一体のものであり、さまざまな分野、多くの主体との連携が欠かせません。環境創造型農業の拡大や環境と経済の共鳴などの取組みを通じてその輪は広がり、人と人とのつながりや地域活性化にも好影響をもたらしてきました。

このような連携の広がりを重視することは、地域社会に根づいた生物多様性保全を目指す本戦略の基礎となるものです。

広がり続ける取り組み



一つひとつの小さな目標の達成を積み重ねることで、私たちはようやくここまで来ました。しかし、私たちが失ってきたものの回復は途上にあり、まだ将来にバトンタッチできる基盤がしっかりと築けたわけではありません。生きものにとっても人にとっても暮らしやすい地域社会を実現していく確固たる道筋をつくることが求められています。

コウノトリが拓く生物多様性の世界。この流れを礎に、これまでに得た自信と認識できた多くの課題を踏まえ、今後も豊岡らしい生物多様性保全の歩みを着実に進めていきます。

2 目標とする姿

穏やかに響きあう いのちと地域

水浴びをする7頭の但馬牛と、それを見つめる農家の女性、川面に舞い降りた12羽のコウノトリたち——。昭和35年に市内を流れる出石川で撮影された有名な写真です。

写真の女性（故・角田しずさん）は、後に当時を振り返り、「あのころは、心が本当に豊かでした」と話されました。この写真は、コウノトリ野生復帰の目標像として、多くの人々の心を動かし続けてきました。



写真提供（有）富士光芸社

この風景は、当時の日常の一部を切り取ったものです。しかし、この何気ない風景を成立させるためにはさまざまな条件が必要であったことに気づかされます。

まずは、農業が暮らしの基礎となっていること。但馬牛は、農耕牛や種牛として各家庭で大切に育てられていました。しずさんはこの日、近所の牛を連れて水浴びをさせる当番にあたっていました。つまり、農業を通じて、隣保付き合いや共同体の強い結びつきも維持されていたはずで。

そして、山、田んぼ、川、海の水系のつながりに支えられて、川には魚をはじめたくさんの生きものがいること。だからこそコウノトリも暮らすことができ、こうしてエサをついばみに集まってきています。

人がいて、家畜がいて、大型の野生動物もすぐそばにいる——。

しずさんの言われる「豊かさ」とは？

豊岡の先人たちは、常に自然とせめぎあいながら暮らしてきました。しかし、洪水をもたらす円山川に苦しめられながらも川を大切に、柳を恵み物として商品化してきました。

生きものへもそうです。家畜だけでなく、稲を踏むと言われたコウノトリも、他方で「瑞鳥」として尊び、愛情を注ぎました。そこには、厳しい環境の中で培われた確かなまなざしがあり、互いのいのちが穏やかに響きあう関係があります。

彼女は、これを「豊か」と表現されたのでしょう。

私たちが目指すものは、さまざまないのちが穏やかに響きあい、共に生きる地域社会です。私たちの“ふるさとの原型”とも言えるこの写真は、これから先も豊岡の確かな未来像であるべきだと考えます。

『穏やかに響きあう いのちと地域』を、豊岡の目標とする姿に設定します。

3 取り組み方

大きな時間の流れを意識し 生物多様性を未来に継ぐ

かけがえのない今、かけがえのない一つひとつのいのち、そのいのちは永遠ではなく限りがあります。

だからこそ、今あるいのちは過去とつながり、未来とつながる必要があります。私たち人間はもちろん、小さな生きものも、地域社会も、生物多様性も。

今というこの時はもちろん、過去の歴史を尊重し、未来に影響を及ぼすという認識のもと、目標像に向けて次のように行動します。

①過去・現在・未来のつながりを意識し

- 1 **知る** 今ある生きものと地域の現状をしっかりと把握し、
- 2 **守る** 残っているものはしっかり守りながら、
- 3 **取り戻す** 壊してしまったものは元に戻しながら、
- 4 **生み出す** ないものは新しく作りながら、
- 5 **つなぐ** 次世代につなぎます。

②一つひとつのいのちに目を向け、そのいのちを

- 1 **輝かせる**
- 2 **支える**
- 3 **つなげる**
- 4 **受け継ぐ**

そして、絶えず実践と
検証を繰り返しながら
5 **挑戦する**

戦略の実施期間は → 15年

「人間社会のあまりの急激な変化に、自然が狼狽している——。」近年の地球温暖化や生物多様性の危機も、そう言い表すことができるように思います。

変化に対応できるだけの時間を保証しながら物事を進めていくことは、自然に対しても、私たちの社会においても必要なことです。生物多様性の理想像「生きものがバランスよく安定し、それが持続可能となる」姿の実現には、ゆるやかな時間感覚が欠かせません。

とは言え、例えば100年先ではその姿を確認することもできず、私たちの責任範囲を超えてしまいます。

私たちは、この戦略の実施期間を「15年」に設定します。

短いように感じられますが、15年後は今の高校生たちが大人になり、地域社会を担う働き盛りの年齢になる頃。地域の状況には、今と違った変化が見られているかも知れません。

緩やかに、かつ確実に次世代にバトンタッチし、彼らの新たな感覚に“ふるさと 豊岡”を委ねたいと思います。そのバトンは、さらに次の世代へとつながっていくでしょう。



4 高校生が描く未来像

この戦略の検討には、高校生の代表6人が参画しました。
彼らが描く「豊岡の確かな未来」とは、どのようなものでしょうか？



車窓から見えてほしい、豊岡の風景は…。

私たちは、この戦略の検討委員会の話し合いの中で、生物多様性とは、ただ生きものの住める環境を守ればいいのではなく、私たちの生活のなかで、生きものと共存していける環境を作っていくことであると学びました。

そこで、私たちは「15年後に帰郷した時、電車の窓から見えてほしい豊岡」をイメージし、その要素を次のページのイラストに詰め込みました。

それは—
守りたい・戻りたい・変えたい・創りたい豊岡。



守りたい
戻りたい
変えたい
創りたい
Toyooka



5 豊岡の基本戦略

第1章で豊岡を見つめ、この第2章では豊岡に合った生物多様性の戦略について考えてきました。ここまでのキーワードを、もう一度整理してみます。

総論

- ・生物多様性は、地球規模の問題であると同時に、極めて地域レベルの課題。
- ・地域の環境（自然と文化）と切っても切れない関係にある生物多様性を守るには、**地域社会** まるごとが健全でなければならない。
- ・豊岡では、地域の範囲として「小学校区」に着目し、校歌をイメージしながら「穏やかに響きあういのちと地域」の実現を目指す。



高校生の思い

「帰省列車の車窓から見える風景が、これからも変わらず豊岡らしくあってほしい。」

- 守りたい** ・風景や、温かい人のつながりなど「大切なもの」は守りたい。
- 戻りたい** ・もっと、生きものと共生するような社会を取り戻したい。
- 変えたい** ・それだけで、機能的・魅力的なまちに変えていきたい。
- 創りたい**



高校生が描く未来像

守るべきもの

- ・風景
- ・地域コミュニティ（共同体）

+

変えるべきところ

- ・風景の中身
- ・コミュニティのあり方



「穏やかに響きあういのちと地域」の実現

※地域社会のあり方が、生物多様性のあり方を決める！

このことから、豊岡が今後進めるべき生物多様性保全の基本戦略を次のように定めます。

豊岡の
戦略の方向性

コミュニティの力で支える生物多様性保全
～地方の強みである地域力を生かす！～

すでに行われている地域活動に、自然再生や生物多様性保全の視点を加え、活動に厚みを増す中でコミュニティ自身の力を高めていく。
コミュニティの力が高まり、健全な地域社会が保たれていけば、自ずと豊岡の生物多様性は保全されていく。

コミュニティ強化と生物多様性の共鳴！

↑ コミュニティをいかした生物多様性保全 ↓
生物多様性保全によるコミュニティ強化

その単位は…

「**小学校区**」が基本
「**校歌**」で結びつく！

では、地方のコミュニティを支えているものにはどんなものがあるでしょう？

農業（第一次産業）

- ・・・地方にとって自然資源は宝です。
例えば田んぼをつくろうと思うと、必然的に共同作業が生まれます。一次産業が結ぶ共同体は重要です。

村日役（むらびやく）

- ・・・村の日役（共同作業）は、煩わしいようでありながら、地域を結びつける重要な働きを持っています。
必ず参加しなければならないというところもミソです。

公民館活動

- ・・・運動会や文化祭・・・小学校区を単位に実施される公民館活動は、コミュニティの結びつきを深めています。

PTA 活動

- ・・・子供を通じた付き合いや活動は、複数年にわたることもあり、強いつながりを生み出しています。
PTA から PTCA へ、地域との連携も重要です。

行政

- ・・・総合行政である市役所を中心に、国・県・市も地域コミュニティの重要な構成員です。
行政の方針が定まれば、地域を変えていける可能性は大いにあります。

etc

こうしたコミュニティに目を向け、その活動をベースにしながら、いかに日々の暮らしに生物多様性保全の動きを盛り込んでいけるかがテーマになります。

「コミュニティ強化とともに実現する生物多様性保全」が、豊岡の基本戦略です。

